

文化財だより

NO.4



発行 ● 太田市教育委員会 発行年月日 ● 平成18年3月31日 編集 ● 太田市教育委員会文化財課
住所 ● 群馬県太田市柏川町520 電話 ● 0276-20-7090

合併記念文化財企画展示事業 ハニコレ2005 ～古代女性 ◆ 美へのあこがれ～

合併記念事業のひとつであるこの展示会は、新「太田市」の文化財を広く周知することを目的として開催いたしました。



イメージキャラクター



ポスター

今回は会場となったイオン太田ショッピングセンターの客層である若い女性たちに焦点をあて、テーマを「古代女性・美へのあこがれ」とし、復元したきらびやかな古代衣装やアクセサリーを数多くそろえ、埴輪や土器もまるで店頭ディスプレイのように展示をしました。華やかさ、親しみやすさに年齢を問わず多くの方が引き込まれたようです。

また土日・祝日には、ハニワキーホルダーブリクラ撮影会を開催。体験できる展示会に好評の声が多数寄せられました。



史跡 金山城跡 の最新情報

「未完成の城」だったか!? 西城

- 調査場所：太田市金山町40-25
- 調査期間：平成17年9月12日～平成18年2月24日
- 調査面積：350m²



西城北土塁から西城曲輪を望む

平成17年度は、西城曲輪における曲輪造成面や土層堆積状態を確認するための調査を行いました。

調査の結果、西城曲輪では建物の柱穴や礎石等は全く見られず、「空間的には何もない、自然のまま」の状態でした。

しかし、西城曲輪の中央から西寄りにある「盛土状遺構」では人為的に盛り上げられていたことが明らかになりました。なお、この「盛土状遺構」の裾部からは永楽通宝が、盛土内からは火薬銃弾丸が出土しました。

西城曲輪は、「盛土状遺構」を除いて、自然地形をそのまま残していることから、曲輪面の造成途中で「未完成」のまま放置された城だったようです。



西城曲輪内の盛土状遺構の断面



盛土状遺構裾部出土の永楽通宝



盛土状遺構内から出土した火薬銃弾丸

馬場下曲輪への「通路跡」を発見!!

- 調査場所：太田市金山町40-48・49・50
- 調査期間：平成17年8月1日～9月9日
- 調査面積：50m²



馬場西腰曲輪で確認された通路跡

馬場西腰曲輪での排水工事に伴う発掘調査では、東から西の馬場下曲輪へ向かうスロープ状の通路が見つかりました。

通路は、新旧2時期あったことも明らかになり、いずれの時期も火災の痕跡が見られました。



金山城跡整備事業



西矢倉台西堀切の西側旧通路の植栽による表示



馬場西腰曲輪の排水工事

金山城跡の公有地化

金山城跡は、昭和9年に国の史跡として18.3haの範囲が指定されましたが、その後、平成14年に追加指定され、指定面積は約5倍の97.8haに広がりました。この中には民有地が存在しており、城跡遺構群の保存管理と調査・整備の推進を図るため、現在、その公有地化を行っています。

平成17年度は11.3haを公有地化し、これにより、公有地面積は約82.1ha、公有地化率83.9%となりました。引き続き平成18年度以降も公有地化を進め、史跡金山城跡の保護と整備・活用の一層の推進を図っていきます。

平成17年度の金山城跡整備事業は、西矢倉台西堀切の西側で確認されていた「旧通路の植栽による表示工」と「馬場西腰曲輪の排水工」を行いました。

西矢倉台西堀切の西側では、発掘調査により西矢倉台西堀切を堀底道にする以前に、棧道から西側へ延びる旧通路が確認されていました。

そこで、この旧通路は、通路部分を「芝と山ツツジにより表示」することにしました。

※この旧通路は、「歩く」ために復元整備したものではありません。

一方、馬場曲輪西側では、馬場曲輪内に復元した石組排水路から流れる雨水により、石階段を浸食し、結果的に、管理制度南斜面が崩壊する結果をもたらしてしまいました。

そこで、馬場西腰曲輪において、石組排水路から流れる雨水を暗渠により排水する工事を行いました。

保存管理計画

史跡金山城跡は、平成14年9月に北城（坂中城）、八王子山ノ砦、大手道、土屋敷などの主要な曲輪群を含む97.8haに追加指定されました。それに伴い平成15年度から新たな「保存管理計画書」策定の基礎資料とするため、4カ年計画で金山城跡の現況遺構測量を実施しています。

平成17年度は、その3カ年目で、大手道周辺、実城北裏周辺について測量図化を行いました。



測量した大手道周辺の航空写真



史跡金山城跡の最新情報

第2期整備基本計画

平成17年度に策定した「史跡金山城跡第2期整備基本計画」は、金山城の「大回廊の復活」とも言うべき金山全体の回遊性の復活を軸に、「総体的な環境保全と拠点整備」を目指す整備計画です。

そして、この金山城跡第2期整備では、ボランティアやNPO等を中心とする市民全般がその主役と考え、人づくりからまちづくりへの発展まで視野に入れた整備計画となっています。



第2期整備の「STEP-1」整備計画

日本100名城に選定

来年、日本城郭協会が財団法人となって40周年を迎える記念事業として、文部科学省・文化庁の後援を得て企画された「日本100名城」の一つに金山城が選定されました。

来年、5月中旬からは、100名城を探訪するスタンプラリーが開始されるそうです。

金山城跡投句箱

俳句の吟行を通して、歴史遺産である城跡や金山の自然・眺望などのすばらしさを再発見すると同時に思い出を残していただきため、金山城跡南曲輪休憩所内に投句箱を設置しました。

投句箱は、年4回開き、太田俳壇の協力を得て選定を行い、入選作は表彰とともに休憩所内に掲示しています。皆さんの投句をお待ちしています。

入選作品

- ・ 大けやき薄暮のはてり感しけり
- ・ 風五月先客のいる物見台
- ・ 老鶴や屋根に石置くがまど跡
- ・ 頂きに秋空映す池ふたつ
- ・ 城跡にむかし色した秋の風
- ・ 日の池の水面に映す秋日傘
- ・ ジュニアの部
- ・ 石垣に葉っぱが遊ぶ春の風
- ・ 金山でいい汗かいたたからもの
- ・ あそんでもあそびたりない
- ・ あきのやま

金山城保存会

平成15年に、金山城跡の歴史的景観を自分たちの手で維持しようと発足した「金山城保存会」は、平成17年度も復元整備を完了した箇所を中心に草むしりや清掃活動を積極的に取り組みました。

さらに、ボランティアガイドとしての活動を見据えた学習会や市外研修（埼玉県・寄居町の鉢形城）も行いました。

金山城保存会学習会の様子▶





史跡新田莊遺跡の最新情報

|史跡新田莊遺跡| 江田館跡

今回の江田館跡における遺構確認調査は史跡整備事業の計画を進めるために実施された学術調査です。

- 調査場所：太田市新田上江田町925-2他
- 調査期間：平成18年1月4日～3月15日
- 調査面積：280m²

江田館跡は、木崎台地西端の段丘崖上に立地している南北朝期から戦国期の城館跡です。江田館跡は周囲を堀と土塁によって守られた本丸と、西にある二の丸が現在史跡に指定されています。

今回の調査では、曲輪や土塁を溝状に深掘りして土層の堆積状態を確認しました。その結果、曲輪や土塁は、館が造られる前に堆積していた旧表土の上に造られていたことがわかりました。また、土塁は盛土の中にローム土が含まれていることから、周囲の堀を造るときに発生した土などを盛って造られていることがわかりました。さらに、旧表土の下からは、古墳時代前期の住居跡や古墳の周溝も見つかり、館が造られる以前にも人々の生活があつたことがわかりました。

見つかった遺物には、館があった当時使用されていたカワラケや小形の硯があり、また、曲輪の耕作土や土塁の盛土の中から円筒埴輪片や、縄文時代の矢じりなど館以前の遺物もありました。



史跡新田莊遺跡 江田館跡（上空から）



土塁盛土の状況（北東から）

|重殿水源関連遺跡|

- 調査場所：太田市新田市野井町地内
- 調査期間：平成18年1月23日～2月27日
- 調査面積：約220m²



確認された溝跡（東から）

史跡新田莊遺跡の一つである「重殿水源」の周辺において、周辺整備事業が計画されていることから、事前に整備計画地内の重殿水源に隣接する埋蔵文化財の確認調査（トレチオ調査）を実施しました。当該場所は、重殿水源に南隣する場所です。

この確認調査で、水源の南側の地形は南西方向に向かって低くなっています。砂層の堆積なども見られることから西側には重殿水源から続く低湿地か、幅の広い溝状の水流があったことが確認されました。また、重殿水源から流れ出したもののものは明瞭ではありませんが、南北方向の溝跡が5条確認され、一部の溝からは近世の陶磁器片が出土しました。

今回の確認調査で、史跡新田莊遺跡の整備実施設計に向けた基礎資料を得ることができました。



史跡新田莊遺跡の最新情報

新田莊遺跡の整備

合併前の平成16年度に用地買収した生品神社脇用地の適切な管理と有効利用を図るため、平成17年度に、生品神社の仮設駐車場整備を行いました。



生品神社の仮設駐車場整備

反町館跡の堀では、合併前から「落ち葉と悪臭」に対する苦情があり、懸案事項となっていました。そこで平成17年度に、堀の浚渫工を行いました。



反町館跡の堀浚渫

保存管理計画(測量)

これまで、史跡新田莊遺跡は、文化庁の指導のもとで、群馬県及び合併前の太田市・尾島町・新田町の旧1市2町が連携して活用事業を行ってきましたが、その保存・管理については旧1市2町がそれぞれで行っていました。

しかし、平成17年3月28日に合併して、新たに

「太田市」が発足し、1つの自治体として史跡新田莊遺跡全体の一元的な保存・管理が可能となつたため、3カ年で「保存管理計画」を策定していくことになりました。

平成17年度は、その1カ年目で、長楽寺境内及び反町館跡について測量図化を図りました。



長楽寺境内航空写真



反町館跡



「30代のコメント」

★博物館とは違う展示方法でとても新鮮でした。服の体験も楽しかった。また、お願いします。
★ハニワは不思議な魅力がありますね。子どもに本物をみてあげられてよかったです。



「50代のコメント」

★楽しく古代が紹介されており、子どもたちも楽しく古代を学べたと思う。

「60代のコメント」

★展示がユニーク、堅苦しいものから現代にマッチした内容。これからも展示願います。



合併記念文化財企画展示事業 ハニコレ2005 ～古代女性 ◆ 美へのあこがれ～

「40代のコメント」

★土器を「なべ」と呼ぶのはなかなかよい。服も楽しめた。
★身近なところで出土したものだと思うと少し不思議です。
★古代の生活・文化がわかりやすく紹介されていて、目からうろこがおちました。



「20代のコメント」

★仕事帰りにミニ博物館に来れてよかったです。
★会場に入った瞬間に、全体が華やかでどっつきやすい印象を受けました。会場も対応なさっていたスタッフもいたわゆる役所っぽくなくて居心地がよかったです。これって実は凄いことだと思います。



『ハニコレ2005』の
詳細は
次のページで!!



ハニコレ20

普段はガラス越しにしか見られない文化財を間近に



古代の仮面でつくったオブジェ

モニターでは古代の衣装を身にまとった女性の幻想的なスライドショーが…



縄文の耳飾りのコーナー



美しく復元された古代衣装の数々。これら
の衣装を着てブリ克拉の撮影をしました！



このコーナーの古代アクセサリー
(復元) 等は実際に身につけるこ
とができました。



高松塙古墳壁画から復元した衣装
～衣装製作～ 左・阿部芳子さん（明和学園短期大学教授）／右2点・足立弥栄子さん





05 大解剖図

見ることができるのも「ハニコレ」の特徴です!!

～展示品～

- 土製目飾り
- 勾玉・管玉
- 動物の角のかんざし（復元）
- 石版など



古代の織物“あんぎん”と編み機



太田市内出土の埴輪たちと古代のうつわの数々



さかいひろこさん提供の
縄文衣装のスライドショー



大盛況のハニワキーホルダーブル



群馬県指定重要文化財
世良田調防下古墳群の埴輪たち
※一緒に飾られている人形たちは手作り。
最終日に抽選をおこなってプレゼントしました。



新田莊

ふれあい探検スタンプラリー

スタンプラリーの素敵な楽しみかた

7月21日～8月31日（夏休み期間）に24カ所中、18カ所以上のスタンプを専用のスタンプ帳に押した方には記念品をプレゼント(^3^)



正法寺（臨屋町）

スタンプ帳のクイズ正解者には
「ハニワのベーカーラフト」が！

記念品のアニマルキーホルダー



聖殿水源（新田市野井町）



西山古墳（蘿塚町）

～スタンプラリー自由帳より～

- ・金山1年ぶりです。疲れたな～。大ドジな子がスタンプ帳を車の中へ忘れてあれ!!どうしましよう…。 (金山城跡)
- ・ハスの花がきれいです。今日も風が爽やか、まだまだがんばるぞ～！ (明王院境内)
- ・水の中に入つてみたい、涼しいだらうな～。 (矢太神水源)
- ・自然がいっぱい蚊もいっぱい。 (中原生品神社境内敷石住居跡)



●文化財講演会

- と き：平成18年2月19日（日）
午後1時30分
- ところ：太田市学習文化センター視聴覚ホール
- 参加者：210名

●基調報告「太田市矢部遺跡出土の漆紙文書」

（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団の高島英之先生に、只上町の矢部遺跡から出土した漆紙文書について、基調報告をしていただきました。この漆紙文書は、奈良時代後期と考えられる住居跡から出土したものです。当時は貴重なものでした。蓋紙には、役所などで不用になった公文書が再利用され、そこに古代の暦が書かれていたことなどをわかりやすくお話ををしていただきました。



高島英之先生

●講演「古代の暦から人々の暮らしをよみ解く —太田市矢部遺跡の漆紙文書をとおして—」

東京大学大学院教授の佐藤信先生からは、豊富な知識をふまえた絶妙な語り口で、古代では暦が国家による支配の道具として使われていたことなどのお話をされました。

講演後の質疑応答でも質問者に誠意を持って回答される佐藤先生がとても印象的でした。



佐藤 信先生

●史跡めぐり

今回は、市民に新太田市の文化財を理解してほしいということで、「新太田市をめぐる旅」で旧1市3町を代表する国史跡である金山城跡、新田莊遺跡の生品神社・東照宮・長楽寺、県重要文化財であるさざえ堂、戸塚本町歴史民俗資料館、東毛歴史資料館をめぐりました。

太田市のシンボルである金山城跡の見学では、山々に霧がかかたり、参加者はその幽玄な風景に感動していました。

また、それぞれの見学地で新しい発見があり、内容の濃い研修となりました。熱心な説明者の話しさに刺激を受け、文化財の勉強をしたいという意欲的な参加者が多く見受けられたからです。

普段あまり接すことのない新太田市をめぐる

ことにより、重要な文化財が数多くあることが参加者に認識していただけた充実した一日となりました。



紅葉の生品神社境内にて



●北部スポーツ公園内遺跡群(第1・2次調査)

- 調査場所：太田市上強戸町地内
- 調査期間：平成17年2月15日～7月29日(1次)
平成17年8月1日～
平成18年3月24日(2次)
- 調査面積：(1次調査) 4,800m²
(2次調査) 8,530m²

北部運動公園造成に伴い、区域内の遺構確認とその記録保存を目的に発掘調査を実施しました。

1次調査では、古墳時代前期の竪穴住居跡9軒と古墳時代後期の古墳1基などを調査しました。また、2次調査では古墳時代前期の竪穴住居跡12軒、方形周溝墓5基、古墳時代中期から後期の古墳3基などを調査しました。

調査した結果、古墳時代前期の竪穴住居跡はほとんどが火災にあっていたことがわかり、その他に方形周溝墓は丘陵の尾根上、古墳は南斜面上に造られているということがわかつてきました。



第2次調査D区全景（上空から）



第1次調査18号遺構で見つかった土器

●岩松千歳2遺跡



調査区南側から見つかった平安時代の集落



調査区北側の中世から近世の発掘調査風景

- 調査場所：太田市岩松町地内
- 調査期間：平成17年2月14日～12月13日
- 調査面積：10,800m²

尾島親水公園造成工事に伴って実施した発掘調査で、古墳時代の竪穴住居跡1軒、平安時代の竪穴住居跡73軒・溝1条、中世～近世の館状区画溝1条・掘立柱建物1棟・竪穴状遺構11基・土坑470基・溝19条・井戸27基・地下式坑2基などたくさんの遺構が確認されました。平安時代の集落は、調査区南側から竪穴住居跡が数多く発見され、当時の高級品である灰釉陶器の皿・椀・小瓶や超高級品である緑釉陶器の取手の付いたつばが出土しました。

中世から近世の屋敷跡は、調査区の東側と北側から見つかり、屋敷のまわりを区画した溝や柱穴が並ぶ建物跡・井戸跡・またさまざまな形の穴（土坑）が集中して造られていました。



●北関東自動車道関連遺跡

- 調査場所：太田市西長岡町地内
- 調査期間：平成17年9月1日～
平成18年2月17日
- 調査面積：約7,000m²

北関東自動車道側道整備に伴って実施した発掘調査で、縄文時代後期（約3,500年前）の土器片が多数見つかり、その他に、奈良～平安時代と推定される堅穴住居跡1軒や複数の川の跡（河道）が確認されました。旧河道に埋まっていた土の中には、縄文時代早期末（約7,000年前）の土器片も含まれていました。



旧河道全景（東から）

●新野脇屋遺跡群（第12次調査）

- 調査場所：太田市城西町地内
- 調査期間：平成17年8月2日～
平成18年3月23日
- 調査面積：約11,200m²

住宅団地造成事業（城西の杜）に伴って行なわれた発掘調査で、17年度は城西の杜の北側部分（堂原遺跡地内）を中心に調査を実施し、堅穴住居跡を4軒・溝17条・土坑約200基を確認しました。

遺物は、台付き甕、小型丸底壺など古墳時代初期のものが多数出土しました。



古墳時代前期の台付き甕

現 地 説 明 会

- 実施日時：平成17年12月3日 午前10～12時
- 場 所：太田市岩松町地内
- 遺 跡 名：岩松千歳2遺跡

文化財課では、発掘調査で発見された遺物や構造に関して、できるだけ一般の方々に見ていただけるように、発掘調査の現地説明会を実施しています。17年度は尾島地域の岩松千歳2遺跡で見つかった、古墳時代～平安時代・近世にかけて造られた堅穴住居跡・土坑・井戸跡・溝・建物跡・墓跡の他に、出土した遺物などを展示して71名の参加者に見ていただきました。



住居とかまどの説明



●出土遺物整理作業

文化財課では、発掘調査の成果を公開・展示するため、発掘調査後は出土した土器の接合・復元作業を行なったり、復元された遺物の実測・写真撮影等を行い、発掘調査報告書の作成等を実施しています。

平成17年度は、強戸口遺跡群や今井地区遺跡群、重殿遺跡、尾島工業団地遺跡、太田市内遺跡などの遺物整理作業を実施し、発掘調査報告書としては『太田市内遺跡1』を刊行しました。



強戸口遺跡群の接合・復元作業



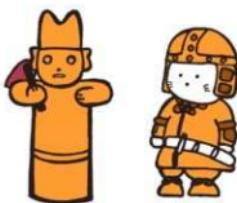
今井地区遺跡群の図面作成



重殿遺跡の出土遺物

事前協議			
内 容	公共事業	民間事業	計
事前照合・協議	115件	1,598件	1,713件
試掘調査	9件	22件	31件
立会調査	32件	21件	53件
慣重工事	9件	207件	216件
試掘調査面積	980m ²	2,451m ²	3,431m ²
立会調査面積	6,525m ²	409m ²	6,934m ²
本調査面積	42,330m ²	0m ²	42,330m ²

試掘調査									
No.	遺跡名	所在地 (太田市)	試掘 調査月	発掘者	No.	遺跡名	所在地 (太田市)	試掘 調査月	発掘者
1	向野遺跡	高林東町	H.17.5	民間	17	城之内遺跡	八幡町	H.17.10	民間
2	西野西遺跡	戸塚町	H.17.6	民間	18	戸塚古墳群 戸塚町	戸塚町	H.17.10	民間
3	中島遺跡	内ヶ島町	H.17.6	民間	19	高瀬前原遺跡	高瀬町	H.17.10	組合
4	城之内遺跡	八幡町	H.17.6	民間	20	西野東中遺跡	戸塚町	H.17.10	民間
5	西野西遺跡	戸塚町	H.17.7	民間	21	通原遺跡	市場町	H.17.10	民間
6	高林本郷遺跡	高林南町	H.17.7	民間	22	中村田遺跡	新田村田町	H.17.12	市
7	小角前原遺跡	世良田町	H.17.8	民間	23	源六塙遺跡	新田下田町	H.17.12	市
8	川原遺跡	藤何久町	H.17.8	市	24	梨子木遺跡	新田花香町	H.17.12	市
9	寝原遺跡	台之郷町	H.17.8	民間	25	桑木島遺跡	新田上田中町	H.17.12	市
10	目塚遺跡	内ヶ島町	H.17.8	民間	26	中屋敷東遺跡	新田村田町	H.17.12	市
11	八石遺跡	戸塚町	H.17.8	民間	27	東部地区 遺跡群	新町・岩畠町	H.17.12	組合
12	大豆柄遺跡	新田木崎町	H.17.8	民間	28	寺山古墳	強戸町	H.18. 1	市
13	国消寺遺跡	市場町	H.17.8	民間	29	重殿水源	新田市野井町	H.18. 2	市
14	天神山古墳 中庭墓	内ヶ島町	H.17.9	民間	30	庚申塚遺跡	新田上江田町	H.18. 3	民間
15	長福寺遺跡	下田島町	H.17.9	民間	31	向野遺跡	高林東町	H.18. 3	民間
16	一町田 堀之内遺跡	新田木崎町	H.17.10	民間					





●群馬県指定重要文化財「板面著色三十六歌仙図」の修復

世良田東照宮が所有する「板面著色三十六歌仙図」は、各縦52.3cm、横36.5cmの額装で、裏面の墨書銘から狩野源四郎・元俊・休白が描いた36枚の歌仙図です。制作年代は、東照宮が造営された寛永19年(1642)頃と考えられています。

三十六歌仙図は、平安時代に藤原公任が選んだ代表的歌人の秀歌に肖像画を加えたものです。

東照宮が、平成10年度から群馬県及び太田市の補助を受け保存修理等を行ってきたものです。平成16年度までに36枚の内30枚の剥落止めや復元模写の作成が終了しています。17年度は、「清原元輔」「藤原元真」「中務」の3枚を剥落止めや復元模写を作成しました。



中務（修理前）



中務（模写）

●摸擬火災訓練

昭和24年1月26日は、国宝法隆寺金堂壁画が焼失した日にあたります。

昭和30年、この日を「文化財防火デー」と定めて、毎年全国的に文化財防火運動が実施されています。

本市では、毎年この日に近い日曜日に文化財摸擬火災訓練を実施しています。今年度の摸擬火災訓練については、平成18年1月22日世良田町にある長楽寺境内で行いました。

訓練は、午前9時から長楽寺本堂南の山林より出火という設定で、発炎筒が点火され、初期消火作業、消防車の出動、一斉放水など一連の作業が手際よく行われました。

来年以降の摸擬火災訓練に備えた太田市消防団の正副分団長が、見守るなか地元住民の協力を得ながら見事な訓練を実施することができました。



長楽寺境内での一斉放水の様子



●「木造不動明王立像」が県の指定文化財に

太田市世良田町にある総持寺の「木造不動明王立像」が、群馬県重要文化財として指定をされました。

総持寺は、新田義重の館「新田館」の一隅に建立した護摩堂の本尊であったという寺伝もあることから、新田氏ゆかりの像であった可能性が考えられます。

不動明王立像は、大きさが100.1cm、一木造りの像で、平安時代後期（11世紀後半）の作と推定されます。県内の木彫像で11世紀までに遡るものには極めて少なく貴重な像です。また、東国で制作された可能性が高く、新田氏との関係も考えられ、歴史的にも高い価値を有しています。

総持寺がある世良田町には、長楽寺・東照宮もありますので、散策を楽しみながら文化財めぐりをしてみませんか。



木造不動明王立像

●「旧世良田村役場庁舎」「小川家住宅」が登録有形文化財の登録に

「旧世良田村役場庁舎・正門」（世良田町）と「小川家住宅主屋・長屋門・蚕室」（安養寺町）が、平成17年11月10日に国の登録有形文化財に登録されました。

「旧世良田村役場庁舎・正門」は、昭和3年に旧世良田村役場として建設されたものです。鉄筋コンクリート造2階の建物で、全体が装飾を控えた簡明な意匠で昭和初期の地方庁舎建築の好例として登録されました。

また、小川家住宅の主屋は、切妻造りの2階建ての主体部が古く、西側の寄棟造平屋建は、後世

の改造になります。主体部の軸組や小屋組はよく残り、18世紀末頃の形式を示しています。

また、平成15年1月29日には、片山家住宅（新田溜池町）が登録されています。



登録証



旧世良田村役場



小川家住宅



高山彦九郎記念館講演会

と き：平成17年5月29日（日）
午後1時30分
ところ：太田市商業高校 文化棟 ホール
参加者：160名



講演する金森敦子先生

「江戸の女俳諧師「奥の細道」を行く－諸九尼の生涯」で、第47回日本エッセイスト・クラブ賞を受賞したエッセイストの金森敦子先生を招き、「江戸の旅人たち－松尾芭蕉と高山彦九郎－」を演題にご講演をいただきました。

江戸時代を代表する二人の旅人、松尾芭蕉と高山彦九郎の旅日記を比較するなかで、旅の期間と歩行距離、旅費（旅籠屋代、わらじ代、茶店代、川越し賃など）、宿泊、関所と番所、諸国の単位（距離・錢）について、詳細に説明していただき、江戸時代の旅の諸相をわかりやすい語り口で講演していただきました。

講演を聴いていると高山彦九郎の旅姿が目に浮かんでき、自分が彦九郎になって旅をし、関所、番所を通過しているような感覚になり、しばしおもいを楽しんだようでした。

高山彦九郎記念館案内

- 開館時間 9時30分～17時(入館は16時30分まで)
- 休館日 ・月曜日(休日に当たる場合は翌日)
・年末年始（12月29日～1月3日）
- 入館料 個人 100円 団体 80円 (20名以上)
※中学生以下は無料となります
- 交通のご案内
 - ・東武伊勢崎線細谷駅下車徒歩10分 (800m)
 - ・東武伊勢崎線太田駅下車タクシー10分 (5km)
- 駐車場 普通車23台 (バスも駐車可能)



高山彦九郎は上野国新田郡細谷村（現太田市細谷町）で生まれた江戸中期の勤労思想家、後世の幕末の志士たちに大きな影響を与え、明治維新を導いた人物です。江戸・京都・細谷（現太田市）を拠点として、全国各地を遊歴し、学者・文化人だけでなく、京都の公家や諸国の人々と交流しました。彦

九郎の思想と情報は、地域や階層を超えて伝わり、日本の歴史を動かす原動力となりました。

この記念館は、高山彦九郎を再評価し、その人物像を広く知っていただくため、平成8年5月3日に、国指定史跡高山彦九郎宅跡附遺髪塚の隣接地に開館しました。





縁切寺満徳寺資料館 德川大学講座紹介

資料館では一般市民を対象とした公開講座に所在地名「徳川」を冠して、徳川大学として実施しています。

縁切寺満徳寺は、江戸時代鎌倉の東慶寺と並んで、「世界に2つの縁切寺」でした。太田市徳川町に所在しましたが、この地名は鎌倉時代から現在にいたるもので、徳川氏発祥の地といわれています。新田氏を先祖とした家康は、松平を改め、徳川を称しました。学問的に疑問とされる点もありますが、家康が先祖ゆかりの地と考え、江戸時代を通じて徳川郷(村)を厚く保護したことに由来します。

講演のテーマは、江戸時代と男女同権です。17年度は合併の関係で、前期には開講せず、後期の開催のみとなりました。

■第2回 伝統文化講座・琵琶

とき：平成17年10月21日(金)

午後6時30分開演

ところ：縁切寺満徳寺復元本堂

演者：薩摩琵琶錦心流中谷派 荒井姿水師
賛助出演 中国三弦 費 堅吾先生

参加者：135名

姿水師は文部大臣奨励賞、日本放送協会賞を受賞され、国内外で活躍に演奏活動をされています。今回は「祇園精舎」と「俊寛」を演じいただき、またお話をうかがいました。費さんは上海生まれ、自作の独奏曲「辺塞之夜」ほかを演奏されました。



荒井姿水師



費堅吾先生

■第1回 大衆文化講座・落語

とき：平成17年9月28日(金)

午後6時開演

ところ：縁切寺満徳寺復元本堂

演者：柳家はん治師匠

柳家市馬師匠

参加者：125名

はん治師匠には新作を2番。酒屋の主人が別な酒屋でほやく「ほやき酒屋」と「生貢(いけす)」の鯛(こい)、これは動物、それも鯛を主人公としたもので、特異な作品を熱演されました。市馬師匠には古典で有名な「時そば」と群馬県安中が舞台であります「こんにゃく問答」を演じていただきました。



柳家はん治師匠

柳家市馬師匠

■第3回 公開講座

とき：平成17年11月19日(土)

午後2時開演

ところ：尾島生涯学習センター

講師：作家 平岩弓枝先生

参加者：350名

演題は「江戸の元気」で、忠臣蔵・大石内蔵之助没後の家族の末路や歴史資料の小説への活用方法などの話を興味深く話されました。



平岩弓枝先生



友の会主催 「狂言の夕べ」・「東慶寺見学会」

- 復元本堂で平成7年から「狂言の夕べ」を主催してきました。1回目は和泉流の和泉元弥師、3回目以降は山本東次郎師の至芸を堪能して、10年を迎えるました。本年は平成17年10月7日(金)、演目は有名な「棒縛」、美男葛をいただいた女性の登場する「真聲」、めでたい脇狂言「福の神」の3曲のほか、東次郎師による絵解説(解説)と則俊師に「那須の与一語り」を演じていただきました。200名の方にご鑑賞いただき、太田市合併記念を飾ることができました。
- 平成18年2月16日(木) 友の会会員ほか計40名の参加をえて、東慶寺の見学会を催しました。東慶寺では、二分咲きの梅をみながら、墓域から宝蔵、その後書院、本堂を経て、水月觀音を特別拝観。昼食を「鉢の木」でいただいて、東慶寺住職・井上正道和尚にご案内いただき、円覚寺の国宝・舍利殿と隣の僧堂を特別に拝観しました。



狂言・棒縛り



国宝・舍利殿を見学する友の会会員

縁切寺満徳寺資料館案内



復元された本堂

平成18年度企画展
「女大学の世界」
ポスター

平成17年度企画展
「三くだり半No.1」の回録表紙



縁切寺は江戸時代、夫の不法に泣く女性を救済して、夫との離婚を達成させる聖所でした。これをアジール(避難所)といいますが、最終的に幕府(国家)権力を直接の後ろ盾として離婚を強制する制度はほかにありません。ですから満徳寺は鎌倉の東慶寺とともに「世界に二つの縁切寺」だったのです。旧尾島町では文化的・歴史的意義を高く評価して、資料館とその後本堂を復元、旧境内を整備しました。

資料館では、春秋年2回企画展を行っています。かつて縁切寺であったことから「三くだり半」をテーマとした企画展を18回、特別展を7回開催しました。17年度は合併記念として「三くだり半No.1」展で、最古・最新、最長16行半、最短1行半などの離縁状を展示しました。18年度春の企画は合併1周年記念として、特別展「女大学の世界」を4月29日～6月11日に開催します。(HPは <http://www8.wind.ne.jp/mantokuji/>)

- | | |
|-------|--|
| ●開館時間 | 9時30分～17時(入館は16時30分まで) |
| ●休館日 | ・月曜日(休日にあたる場合は翌日)
・年末年始(12月29日～1月3日) |
| ●入館料 | 個人 200円 団体 160円(20名以上)
※中学生以下は無料となります |



藪塚本町歴史民俗資料館案内

- 開館時間 9時30分～17時(入館は16時30分まで)
- 休館日 ・月曜日(休日に当たる場合は翌日)
・年末年始(12月29日～1月3日)
- 入館料 個人 100円 団体 80円(20名以上)
※中学生以下は無料となります
- 住所 〒379-2301 太田市藪塚町149
☎0277-78-5728

当館は故今井新次氏によって町内外から収集された埋蔵文化財が寄贈されたのを期に昭和53年に開館しました。石田川式土器をはじめ、石之塔遺跡出土の土製耳飾りや市内各地より出土した埴輪を展示しています。

このたび古代衣装の展示や、耳飾り(レプリカ)に触れていただくスペース、縄文の森をイメージしたスペースなどを加え展示を一新しました。これからも市内で出土した遺物などを市民のみなさんに親しんでいただけるような手法で展示してまいりますので、ぜひ一度おこしください。



新しい公共空間を目指して

文化財課長 宮田 翠

史跡金山城跡の第1期整備事業は、平成6年度に日ノ池整備からスタートし、順次西の方へと整備を進めてきました。わかりやすい整備を目指し、尾根部に造る城郭遺構の顕在化を図ることにより、往時の城の景観を再現することに努めました。お陰で、来訪者も多くなり、周辺の保育園や幼稚園の遠足も復活してきました。そうした中で、平成17年度に第2期整備基本構想を策定し、引き続き18年度には第2期整備基本計画を策定しました。

この中では、柱の一つとして、ボランティア団体の活動拠点と情報発信を行なう基盤整備を掲げ、来訪者への総合的な解説を行なうガイダンス施設と、体験学習やボランティア団体の活動・交流の拠点となる地域交流センターの建設を計画しております。史跡に興味のある方だけでなく、より多くの方々に、積極的に活用していただきたいと願っています。

金山城跡や新田莊遺跡などの史跡や文化財を後

世へ伝えていくには、存在価値や意義が広く理解されていることはもちろんですが、多様なニーズや意見に対応していく必要もあるでしょう。

いままでは行政が歴史学習の「機会」や「場」を提供し、市民は提供されたものから選択して参加するという形がほとんどでした。どちらかといえば、受動的だったといえるでしょう。しかし、こういう形では充分な満足がえられなかつたのではないかでしょうか。市民が充分な満足を得るために、構想や計画の段階から参画することがニーズに適合した事業展開の重要な要素になってくるよう思います。

いま、建設を計画しているガイダンス施設や地域交流センターにおいては、市民がこれらの管理や運営に「参画」し、行政と市民が「協働」する形ができる、またそこから新たな事業が派生し展開されて行くような新しい公共空間づくりができるばと考えております。

- 太田市のホームページアドレス● <http://www.city.ota.gunma.jp/>
- 文化財課● Eメール 042000@mx.city.ota.gunma.jp